

ほうれんそう

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
6 ヨトウムシ	1. 卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 2. 発生の多い9～10月播き栽培を避ける。 3. 施設栽培では飛び込み軽減のため、開口部を防虫ネット（4mm目合以下）で被覆する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 他作物からの移動により、被害を受けることが多い。 2. 年2回の発生で、秋は9月中旬に成虫が出現する。	幼虫発生初期	3A 15	アグロスリン乳剤 ノーモルト乳剤
7 シロオビノメイガ	1. 施設栽培では飛び込み軽減のため、開口部を防虫ネット（1mm目合以下）で被覆する。	発生初期	5 14 15 28 28	ディアナSC パダンSG水溶剤 カスケード乳剤 プレバソフロアブル5 ベリマーケSC
8 アブラムシ類	1. シルバーマルチをする。 2. 周辺雑草の防除をする。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. アドマイヤーフロアブルはアザミウマ類にも登録がある。 2. アディオン乳剤は、ハクサイダニにも登録がある。	播種時	4A 4A 4A 4A 4A	アドマイヤー1粒剤5 アクタラ粒剤5 ダントツ粒剤 アルバリン粒剤 スタークル粒剤
		発生初期	1B 3A 3A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4A 4C	マラソン乳剤 アディオン乳剤 アグロスリン乳剤 アドマイヤー顆粒水和剤 アドマイヤーフロアブル モスピラン顆粒水溶剤 アクタラ顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 トランスフォームフロアブル
9 ミナミキイロアザミウマ	1. 侵入防止対策のとれているハウスでは、青色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げるができる。 2. シルバーマルチをする。 3. ハウス栽培では収穫終了直後に圃場の地表面を透明フィルムで全面被覆し（夏場の晴天日であれば1日処理が目安）、地温を50℃以上に上げると、土中の蛹を死滅させることができる。	発生初期	3A 5 14	アグロスリン乳剤 スピノエース顆粒水和剤 パダンSG水溶剤
10 ハダニ類	1. 乾燥させないようにする。 2. 周辺雑草を防除する。	発生初期	21A	ダニトロンフロアブル
11 コナダニ類	1. 収穫残さは圃場外に持ち出し処分する。 2. 未分解の有機物の使用は避け、完熟したものを使用する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. コテツベイト、カスケード乳剤、アフターム乳剤はホウレンウケナガコナダニに登録がある。	播種時～ 2葉期	13	コテツベイト
		発生初期	6 15	アフターム乳剤 カスケード乳剤
12 ネコブセンチュウ	1. 被害株の間引きを行う。 2. 輪作を行う。 3. 水田に転換可能な畑では、2～3年に1回の割合で水田に戻す。	播種前	1B	ラグビーMC粒剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する